社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年7月号

[11面]

平成19年度校友会事業計画

1、主要会議の開催

(1)代議員会

(2)定時総会

(3)全国支部長会

(4)校友会創立120周年記念祝賀会(12月8日グランドプリンスホテル新高輪)

(5)幹事会、専門部会、正副会長会

(6)三大学校友会同窓会連絡会

2、組織の強化、支部活動への支援

(1)支部活動等援助、助成、連携強化

(2)支部の結成促進及び休眠支部の活性化

(3)校友データの整備

(4)活動顕著な支部及び個人の顕彰

(5)顧問・相談役・参与懇談会の開催

3、財政基盤の強化

(1)年会費納入会員の拡大、未納者への納入促進(年会費納入会員募集拡大キャンペーン、コンビニエンスストアからの年会費振込実施)

(2)専修大学カード入会促進(カード会員募集拡大キャンペーン、在学生への入会案内、カード協力店の拡大、専修大学独自のサービス拡大)

4、大学発展への協力

(1)大学役員との懇談

(2)大学が行う事業資金募集への協力(募金拡大キャンペーン、創立130年記念事業等への協力)

(3)校友子女の推薦入学制度の検討

(4)就職活動への支援・協力

(5)校友会奨学生規程制定

(6)学生諸団体の行事・課外活動等への支援・助成

(7)大学スポーツ強化支援(専修大学体育強化連絡協議会)

(8)育友会との協力・連携

(9)大学主催講演会等への協力・校友会主催の公開講座(各界で活躍する校友の講演他)の開催

(10)校友文庫(著作)の充実

(11)無料法律相談会(法曹会主催、校友会後援)の開催

5、会員の親睦、福利の増進

(1)校友会ゴルフ大会の開催(アドニスカップ、グリーンカップの実施)

(2)校友の集い(ホームカミングデーの開催)

(3)新校友へのアピール(新校友歓迎祝賀会の開催)

6、広報活動

(1)校友会総合情報誌「アドニス」の発行(年4回)

(2)校友会ホームページの充実

(3)大学発行新聞「ニュース専修」に校友関連記事掲載(「ニュース専修」の送付)

7、委員会等

(1)会則検討委員会

(2)役員推薦委員会

(3)校友会館建設検討委員会

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年7月号

[11面]

「校友会定時総会」を 開催

総会は中野郁雄氏（昭44経営）の司会で進行、甘竹秀雄会長（昭33商経）が、初めて東京以外の地で開催した経緯と意義を述べ、開催地の高岡潔支部長（昭46法）があいさつ。来賓を代表して日高義博学校法人専修大学理事長・学長が創立130年記念事業について語り、大学運営の確固たる基盤確立のため、全国の校友の支援を呼びかけた。叙勲・褒章受章者、体育表彰者の紹介と代議員会諸報告をもって総会は終了した。

懇親会は、松田了育友会長の発声で乾杯し、スウィングジャズ研究会の演奏、ジェリー藤尾さんの歌、原一平さん（昭36商経）の漫談、やまもときようこさん（平3商）のラテン音楽が会場を明るいムードに包んだ。お楽しみ抽選会のあと校歌を斉唱して散会した。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年7月号

[11面]

全国支部長会を開催

往年のエース 芝池博明氏が講演

総会に先立ち同ホテルで約110人が出席して「全国支部長会」が開かれた。甘竹秀雄会長が、先に行われた代議員会における役員改選（全役員留任）、会則の改定にかかわる諸事項等についての報告と、「校友会創立120周年を契機に、校友会館のような憩いの場を設置し、さらなる結束に努めたい」と抱負を語った。

芝池博明氏

日高理事長・学長

続いて、ゴルフ大会・講演会・校友会創立120周年記念式典の開催などが報告され、坂本伴治副会長（昭31商経）からの総括と、各支部の発展に貢献した校友の表彰が行われた。

同会終了後、投手として大学通算成績41勝（現東都大学野球記録）を挙げ、プロで活躍した芝池博明氏（昭44商）が講演。全日本大学野球選手権（昭和40年）で初の「大学日本一」に導いた立役者の講演に、参会者から大きな拍手が送られた。

▲全国支部長会であいさつする甘竹会長

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

≪校友短信≫

◇新社長

財部 憲男氏（ざいぶ・のりお＝昭45経営）（株）KISの社長に6月19日付で就任。熊本市に本社を置く同社は、情報サービス事業を展開、業務アプリケーションの開発・支援などを行っている。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年7月号

[11面]

≪校友の本 紹介≫

白壁の鼓動

宇土日出男著（昭46商）＝幻冬舎ルネッサンス（213ページ。本体1100円＋税）

静岡市でライブ・パブやビルを経営するかたわら、作詞・作曲活動を続け、現在柔道部静岡県支部長でもある著者が初めて挑んだ純愛小説。

太平洋戦争下、北海道小樽の旧家に嫁いだ主人公の和恵は挙式の1週間後に夫が出征。その後日本の敗戦をはさんで数々のアクシデントに見舞われ、旧家は没落するが、逆境に耐え、やがて復員してきた夫と再会。旧家を復興させ、女子短大創立に尽力するという物語だ。ひかえめで古風なタイプの女性をりりしく美しく描いており、それが作品を際立たせている。

テストパイロット

南堀英二著（昭52経）＝光人社NF文庫（693ページ。本体1143円＋税）

「尾崎放哉と私」「忘れ得ぬ人 内田義彦先生」などで知られる著者が、旧日本海軍一等飛行操縦士森川勲の生涯を描いた会心のドキュメント。香川県小豆郡四海村出身の主人公とは、著者が同村公民館主事として赴任したときから交流。以来15年にわたり聞き書きし、本書に結実させた。森川は1924年、20歳で海軍に志願。連合艦隊旗艦「陸奥」の水上偵察機搭乗員となり、のちテストパイロットとして活躍。戦後は故郷の分教場で寡黙な教員生活を送ったがその波乱の人生を愛惜の念をこめ追跡している。

「地圖」が語る日本の歴史

菊地正浩著（平18法）＝暁印書館（243ページ。本体1800円＋税）

元大本営陸軍参謀で陸地測量部担当の渡辺正少佐は、敗戦の玉音放送を聴いたあと、陸軍と共に陸地測量部も解体されると考え、測量・地図技術を守るため、占領軍が上陸する前に極秘で組織を切り離し、新たに地理調査所（現国土地理院）を発足させた。著者はこの間の経緯、秘話を渡辺氏から直接取材し、当時の資料や多くの地図と共に本書ではじめて紹介、注目を集めている。申し込めばサイン本を送ってくれるそうだ。埼玉県蕨市中央4—2—11 電話048—432—0143

モンゴルのストリートチルドレン

A・デルゲルマーほか著

東京大学大学院在学中のアルザフグイ・デルゲルマーさん（平14院文修）が、このほど出版された『モンゴルのストリートチルドレン—市場経済化の嵐を生きる家族と子どもたち』（朱鷺書房、本体2800円＋税）の筆者の一人となっている。

貧困、家庭内暴力、人身売買…。急激な市場経済の波の犠牲になり、深刻な状況にあるモンゴルの子どもたち。その実情を明らかにし、改善への取り組みを、フィールドワークで徹底検証している。

デルゲルマーさん は、ゴビ・アルタイ県出身の留学生。日本語が堪能で翻訳・通訳も担当した。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2007年7月号

[11面]

≪専大校友を訪ねて≫

舞台は「世界」…粘りの交渉で支援活動

—世界保健機関（WHO）南東アジア地域事務局官房室長 医学博士 蒲 章則（かま あきのり）さん（昭51法）

世界を舞台に活躍する「国際公務員」は、外交官としての特権と責任を持ち、各国の大臣級の要人と対等に渡り合う。

WHO南東アジア地域事務局で地域事務局長のコーディネート役となり、インド、バングラデシュ、ミャンマー、ネパール、スリランカなど11カ国の保健衛生に関するあらゆる問題に対し政策的支援、技術協力、援助などを各国と連携しながら行っている。医療と行政の専門家として、グローバルな視点での「粘り強くあきらめない」交渉を得意とする。

国際法の池田文雄教授（現名誉教授）に言われた「働くなら世界を舞台に」という言葉が人生を決定づけた。

本学卒業後、四つの大学で国際法、医学、国際保健学などを学び、医学博士の学位を取得。（財）日本国際医療団などで国際医療協力の経験を積みながら履歴書を送り続け、37歳でWHOの職員に。

「日本は米国に次ぐ出資国ですが人的貢献が少ない。WHOで働く日本人は60人ほどです。さまざまな分野で経験を積み、専門性を身につけた人は、ぜひ国際公務員にチャレンジして」と後輩に呼びかける。

長男はシカゴで法律を、次男はプラハで医学を学んでいる。「開発途上国の環境を見て育った二人は『人の役に立つ仕事につきたい』と飛び立ちました。感性が豊かな若いうちの海外経験は、さまざまな価値観に触れ、得るものも大きい」と海外経験の大切さを説き、言葉の壁は「現地に行けば越えられる」と語る。

「専大の創立者は留学経験者ですから、後輩たちも、もっと海外に目を向けてほしい。『興味があること』を探すためには、常にアンテナを張っていること。『将来が見えない』と悩んでいる人は、途上国を訪れてみて。『日本人のアイデンティティー』について深く考え、人生観が変わりますよ」とメッセージを残し、インドに戻っていった。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.